



TTM フォーラム九州は
おかげさまで10年目を迎えました。

th Anniversary

第10回

TTMフォーラム九州

- 日時 2019年10月19日(土) 13:30~17:30
- 会場 ホテルレオパレス博多(3Fイベントホール)
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目5-33 TEL.092-482-1212
(JR博多駅 筑紫口より徒歩3分)



● 特別講演

『病理像からみる静脈血栓塞栓症』

演者 宮崎大学医学部病理学講座
構造機能病態学分野

浅田 祐士郎 先生

● 教育講演

『抗リン脂質抗体症候群:検査診断の最新情報と将来展望』

演者 山口大学大学院 医学系研究科
生体情報検査学

野島 順三 先生

共催: TTMフォーラム九州
株式会社LSIメディエンス

講演要旨

特別
講演

病理像からみる静脈血栓塞栓症

肺血栓塞栓症と深部静脈血栓は一連の病態であることから、静脈血栓塞栓症と総称される。静脈血栓はサイズが増すほど合併症の危険度が高まるため、血栓の発生に加えて増大するメカニズムの解明と防止策の確立が重要なテーマとなっている。

静脈系は、流速が遅く、凝固系が活性化されやすいことから、静脈血栓はフィブリンと赤血球に富んだ赤色血栓と理解されている。しかしヒトの静脈血栓塞栓症で観察される血栓は、赤色血栓に加えて、白色、混合血栓が種々の程度に混在したもので、壁付着部では、フィブリンと共に多数の血小板凝集像が観察され、動脈血栓と類似の像を呈している。中枢側に進展した部位では、赤血球やフィブリンの占める割合が高くなるが、血栓内には多数の血小板が観察され、静脈血栓の形成においても、血小板の関与が大きいことが示唆される。

静脈血栓の形成機序について、人体病理と動物モデルの病理所見を中心に考察する。

宮崎大学 医学部病理学講座 構造機能病態学分野

浅田 祐士郎

教育
講演

抗リン脂質抗体症候群：検査診断の最新情報と将来展望

抗リン脂質抗体症候群（APS）の診断には、抗リン脂質抗体の検出が必須であり、臨床検査の役割は極めて大きい。抗リン脂質抗体とは、リン脂質に関連した自己抗体の総称であり、認識するエピトープの違いにより幾つかの種類に分類される。従って抗リン脂質抗体検査では、患者血液中に混在する複数種の抗リン脂質抗体を複数の免疫測定法で検出することに加え、その抗体活性（ループスアンチコアグラント活性）を複数の凝固学的検査法を組み合わせることで判定しなければならず臨床検査としては複雑且つ煩雑な検査の一つである。このような背景から、APSは検査診断の段階で見逃されている症例も多く、抗リン脂質抗体検査の標準化が急務の課題である。本講演では、抗リン脂質抗体標準化ワークショップを中心に進められているAPS検査診断の最新情報と将来展望を概説すると共に、APSの病態に関連する我々の研究を紹介する。

山口大学大学院 医学系研究科 生体情報検査学

野島 順三